

# プロジェクト境界のクリップ

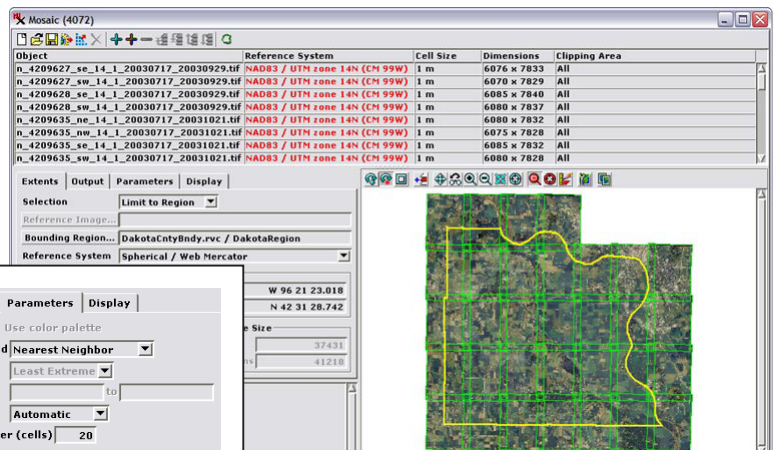
TNTmips Pro を使うと標準的な web タイルセットである Google マップ、Google Earth、Bing Maps、NASA World Wind や TNT プロジェクトファイルとしてアクセスできるラスタオブジェクト用のタイルセットを作成できます。Web タイルセットは \*.tsd ファイルを使って TNT 製品で使用できます。「タイルセットのエクスポート」、「自動モザイク」、「タイルセットのマージ」や「タイルセットの抜き出し」処理等でタイルセットを作成したり処理を行う場合、プロジェクトの地理的範囲を指定して出力タイルセット全体の範囲を制限できます。このプロジェクトの領域 (制限領域) を指定するには、予め作成した 1 個又は複数のポリゴンから成る図形オブジェクトを使用します。使用できるオブジェクトは、任意の座標参照系のベクタ、CAD、シェイプやリージョンオブジェクトです。複数の隣接しているポリゴンを含むオブジェクトを選択した場合、これらのポリゴンの和集合 (ユニオン) の最外郭境界 (島

を除く外側の境界) が制限領域として使われます。制限領域用オブジェクトの選択に使用するコントロール画面を各処理ごとに下記と次ページに掲載しています。次ページで説明しているように、標準描画ツールで処理表示画面にポリゴンを手作業で描き、結果をリージョンオブジェクトとして保存して、制限領域の定義に使用することもできます。

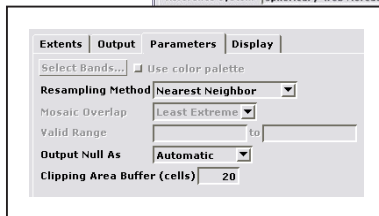
制限領域を定義する方法によらず、その外側にバッファゾーンを付けるオプションがあります。バッファの幅はラスタのセル数で設定します。これらの各処理において、個々の入力画像 (「自動モザイク」や「タイルセットのエクスポート」の場合) や入力タイルセット (「タイルセットの切り抜き」および「タイルセットのマージ」の場合) に対して個別にクリッピング領域を指定できます。テクニカルガイド「タイルセット：入力画像のクリップ (Tilesets: Clipping Input Images)」では入力データ用のクリップ領域を指定する手順について解説しています。

## 自動モザイク処理

「自動モザイク」でプロジェクト境界を適用するには、[範囲 (Extents)] タブパネルの [選択 (Selection)] メニューから [領域に限定 (Limit to Region)] を選択し、[制限領域 (Bounding Region)] プッシュボタンを押して希望する図形オブジェクトを選択します。選択したオブジェクトの輪郭がモザイクウィンドウの表示ペインに表示されます。右図では、ネブラスカ郡の 4 分の 1 図郭正射画像がタイルセットへモザイク処理され、郡の境界線が制限領域になっています (黄色の線)。

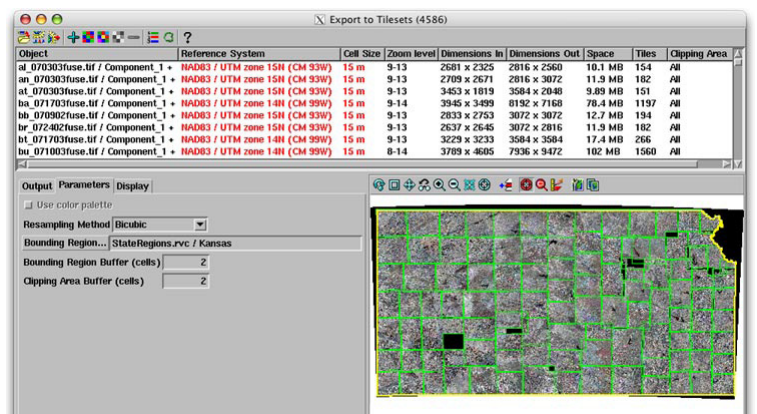


「自動モザイク」では、同様のバッファゾーンを入力データのクリップ領域や出力データの制限領域に使用できます。[パラメータ] タブパネルの [クリップ領域のバッファ (Clipping Area Buffer)] フィールドでバッファゾーンの幅をセル単位で設定します。



## タイルセットの作成処理

「タイルセットのエクスポート」処理において、[パラメータ] タブパネルの [制限領域] プッシュボタンで図形オブジェクトを選択し、出力タイルセット全てに対する制限領域を定義します。選択したオブジェクトの輪郭はタイルセットのエクスポートウィンドウの表示ペインに表示され、表示内のソース範囲のオーバーレイが自動的にこの境界で切り抜かれます。右図では、カンザス州の郡の画像のタイルセットが作成されており、州の境界が制限領域です (黄色の線)。



制限領域の周りにバッファゾーンを作成するには、同じタブパネル上の [制限領域のバッファ (Bounding Region Buffer)] フィールドに希望セル数を入力します。

\*これらのタイルセット処理については下記のテクニカルガイドで解説しています。

タイルセット：タイル構造の作成 (Tilesets: Creating a Structure)

タイルセット：タイル構造のマージ (Tilesets: Merge Structures)

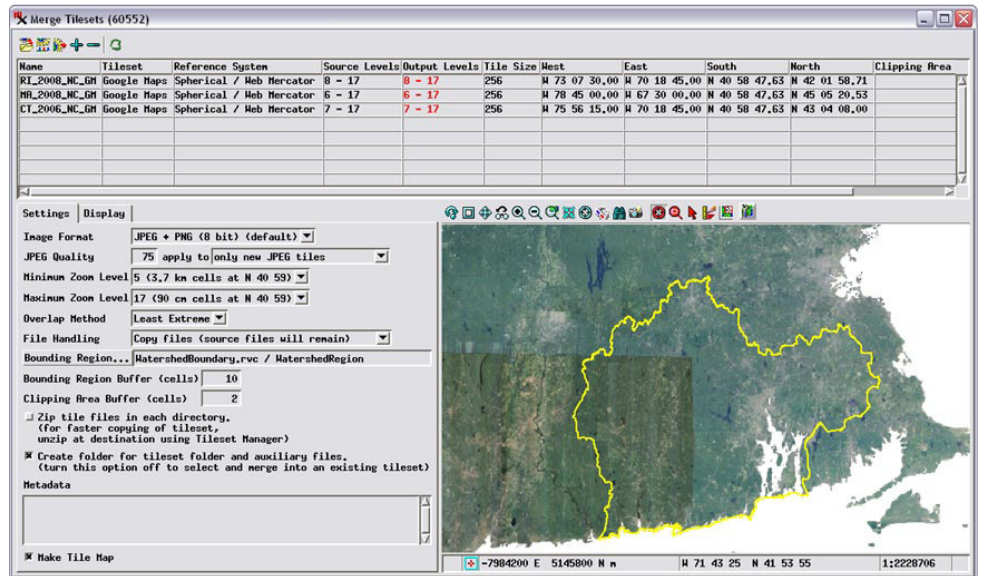
モザイク処理：Google マップタイルオーバーレイへのモザイク (Tilesets: Mosaic to Google Maps Tile Overlay)

タイルセット：タイル構造の抜き出し (Tilesets: Extract Structures)

## タイルセットのマージ処理

「タイルセットのマージ」処理では、[パラメータ]タブパネルにある[制限領域]ボタンを使って図形オブジェクトを選択して出力するタイルセットの境界エリアを決定します。選択したオブジェクトの輪郭は自動的に「タイルセットのマージ」ウィンドウにオーバーレイとして表示されます。右の図では、3つの隣接している州(マサチューセッツ州、ロードアイランド州、コネティカット州)の正射画像タイルセットが入力に使われています。黄色の輪郭線は集水域のグループの外形を描いた制限領域(3州の一部をカバー)です。マージした出力タイルセットを切り抜くのに使用されます。

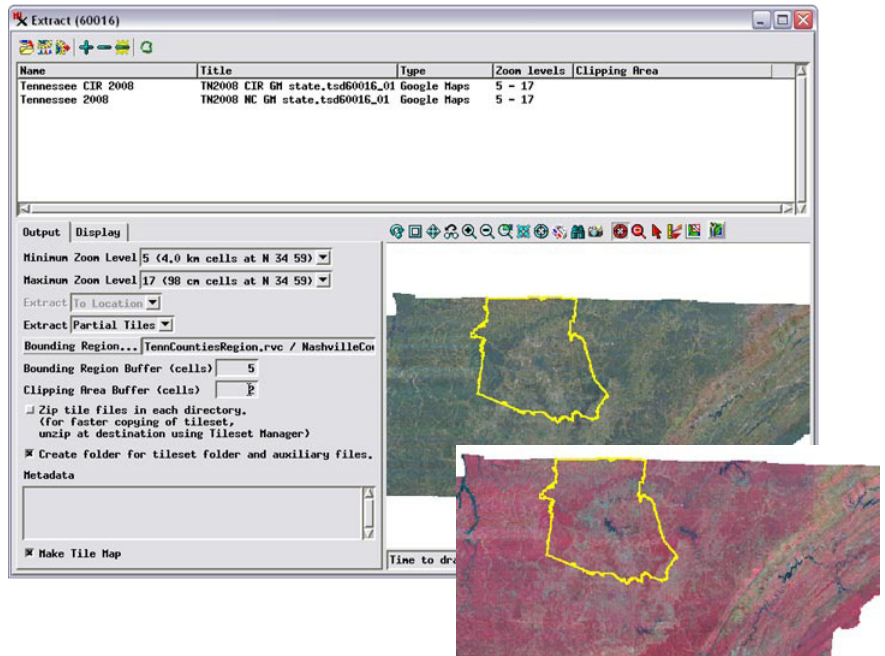
制限領域の周囲にバッファゾーンを作るには、同じタブパネルにある[制限領域バッファ(Bounding Region Buffer)]フィールドに希望するセル数を入力します。



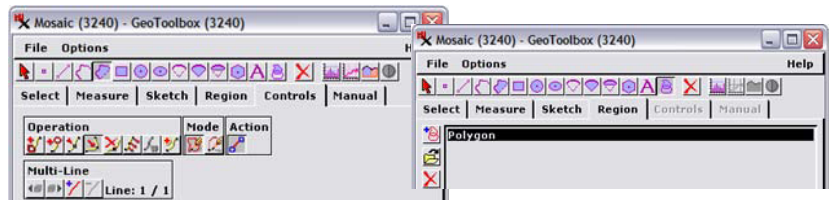
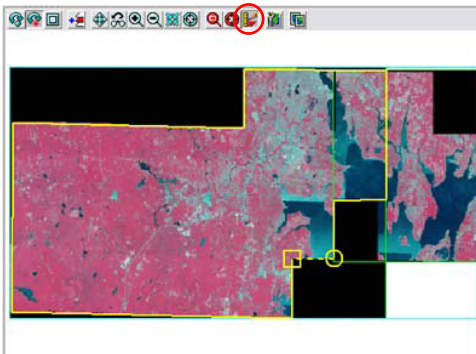
## タイルセットの切り抜き処理

「タイルセットの抜き出し」処理では[出力(Output)]タブパネルにある[制限領域]ボタンを使って図形オブジェクトを選択し、出力する全タイルセットの境界エリアを決定します。選択したオブジェクトの輪郭は自動的に「タイルセットの抜き出し」ウィンドウにオーバーレイとして表示されます。右の図では、制限領域を使って、全テネシー州をカバーする2つの正射画像タイルセット(ナチュラルカラーとカラー赤外)から同じ領域を切り出しています。制限領域(黄色の線で表示)は、ナッシュビル市周囲の複数の郡の境界線です。

制限領域の周囲にバッファゾーンを作るには同じタブパネルにある[制限領域バッファ]フィールドに希望するセル数を入力します。



## ジオツールボックスを使って制限領域を描画し保存する



制限領域をマニュアルで定義するには、処理ウィンドウの表示ペインの一番上の[ジオツールボックス]アイコンボタン(左図の赤丸で囲んだ部分)を押します。〈ジオツールボックス〉ダイアログの描画ツールを使って、希望する領域を描いたり、それから一時的にリージョンを作ったり、リージョンをプロジェクトファイルに保存したりできます。その後は上で説明した手順に従って、保存したリージョンオブジェクトを選択して、処理を行う制限領域を定義することができます。ジオツールボックスを使った領域の定義に関しては、チュートリアル「対話的リージョン解析(Interactive Region Analysis)」で説明しています。